

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス事業）

○事業所名	のぞみ園			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日 ～ 2025年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日 ～ 2026年 1月 16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心身の発達支援に活用できる遊具を整備し、それだけでなく季節や地域性なども踏まえた子ども達の発達支援を行っている	・ダイナミックな活動（感触遊び等） ・将来を見据えた活動（調理体験・買い物活動・お買い物ごっこ等 イメージを育てる） ・様々な活動に使用できる遊具等の整備 ・奄美の行事や自然に触れ合うことができる活動を年間を通して実施	・職員向け遊びや活動の研修会（活動の展開や年間計画に基づく活動作り）などを学ぶ機会を増やしていく ・新たに開発された発達支援機器などの情報も収集しながら活用できるツールは整備を行っていく ・同法人の就労支援事業所との交流会の企画
2	各家庭の事情に合わせた家族を包みこむ個別支援、切れ目のない支援	・ご家庭の必要に応じて地域とつながり、家庭への訪問支援、送迎支援を行いインクルーシブな視点を大切にしている ・学校に行くことができなかった時は朝からの受け入れを行い日々登校の様子を見守っている ・親子行事を通して先輩の姿から将来への見通しが持てるような機会を設けている（安心できる子育て） ・同法人の就労支援事業所職員による就労についての学習会開催（切れ目のない支援）	・専門職種の雇用と新たな委託契約の検討 ・リモートを活用して関係機関と密に情報共有が行える機会作りを行っていくことと、同法人の専門職種と連携できる体制整備を行う ・地域支援者との顔の見える関係作り（リモート研修、自立支援協議会の部会参加などを通じた関係作り 等）
3	学ぶ機会作りを年間を通して実施している（職員の資格取得推進・保護者向け勉強会の開催 等）	・研修出張費として年間100万円以上を予算化し、様々な外部研修（リモート研修や資格取得研修も含めた）に職員を派遣している ・鹿児島大学の先生方と連携して、定期的な事例検討会や職員向け研修会の開催、保護者向け勉強会の開催などを年間を通して実施している	・研修委員会にて研修の振り返りや参加できなかった職員への周知などを確認しているので、毎年効果的な研修が実施できるようにブラッシュアップしていく ・保護者会に意見を求めながら、保護者が聞きたい研修を企画・立案していく ・地域の事業所や関係機関にも研修機会を提供できるように内容に応じた案内を行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域と連携した支援と専門職の配置	人材不足と待遇面の課題	・専門職配置できる人材確保のための活動を積極的に行い、専門職等を確保することで学校との情報交換において柔軟な対応で日程調整できるように工夫していく。
2	家庭の事情に応じた柔軟な受入れ体制の構築	・児童発達支援センターも同じ場にあるため利用人数が多く、児発と重なる時間帯の環境の確保が難しかったことがあった。 - また、送迎車両も同じ車両を使用のため限りがあった。	・今年度から限られた人数だが日中一時支援として受け入れ体制を作っている。また、乗車人数多い車両の購入により児発と同時に送迎ができるようになってきている。今後も柔軟な対応ができ支援が広げられるよう人材確保に努めたい
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年 2月 4日				
のぞみ園 放課後等デイサービス事業						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・譲り合って使います ・もう少し運動できる場の確保があると良いです		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	・職員の増員が必要 ・配置人数は満たしているが1対1で対応する子がいる ・不足に感じるが、やり方によって足りていると思います	・職員採用に関しては継続して行っていく ・支援方法や活動内容の工夫を行っていく	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・整理整頓の必要性は感じますが	・環境整備の大切さを認識していく ・業務見直しを行い整理整頓の時間の確保ができないものか検討していく	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・衛生、感染対策の導線など工夫が必要		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	・業務改善の振り返りは時間の確保が難しく、来ていないと思います ・PDCAサイクルという所が難しいです	・PDCAサイクルについて職員研修を実施していく ・振り返りの時間確保ができるよう業務の見直しを行っていく	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・今回実施しているアンケートを基に改善していく	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			・外部評価をしていただくための準備中	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			今現在作成中です	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・アセスメントや子どもの課題分析は今の状態で難しいように感じます	・ニーズや課題の捉え方を学ぶことができるよう支援計画会議を確実にする。その時間確保のための業務見直しを行っていく	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			・業務内容の見直しを行い時間の確保ができるようにする	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			・支援会議日程調整を担当者全員が入れるよう工夫する ・確認しやすいようファイリングしているが振り返りの時間に確認する等の工夫をする	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	・標準化されたものを用いていません	・ツールを用いたアセスメントを検討中	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・チームでは話し合いが出来ている		

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・その日での振り返りは難しく、次の日口頭で5分程度できている	・業務内容の取り組み順番等の再確認を行い、ルーティンとなるよう視覚化して分かりやすくする。また、勤務体制でも工夫を行う
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			・年間の行事予定表にモニタリング時期等の表記を行い実施できるようにする
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			・放課後等デイサービスのガイドラインについての学習会を年度初めに行う
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・最近努力しているように思います	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児発管のみが多いため担当職員も必要	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・下校時刻の連絡は少しずつ来るようになった	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・していると思っていますが、知らなかったということが多いように見えます	・利用者記録のファイリング方法を個人名に分けて整理し、一人の児の状況をいつでも把握できる工夫を行う ・就学前の会議録をデーターで個別フォルダに保存し確認しやすいようにする
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・ファイルの確認を行っていたり、元担任に聞くことが出来ている	・児発管を中心にこれまでの支援経過も含めて丁寧に情報共有を行っている
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・出来ていない	・機会を設けることはできていないが、公園等公共の場にて過ごすことがあるため今後も積極的に取り入れていく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時やラインで共有している ・よほど気になった時のみ連絡を取っています	・各チームの振り返りを基に申し送りでも共有を行い見落としのないよう今後も継続する
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・鹿児島大学の先生方と連携した保護者向け研修会などを開催している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・タイムリーにできていないように思います	報告、連絡、相談の流れを徹底し、気になるお子さんに関しては電話やお迎え時に対応できるようにする
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者同士は行事で交流を設けているが、きょうだい同士はできていない	保護者同士の交流の場は設けていますので今後きょうだい参加があった場合にはきょうだいだけのお部屋を作り交流の場を設けていく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・すぐに児発管に伝えている	児発管に伝えるだけでは終わらず、その後の対応を上長とも確認し、経過報告も行えるようフローチャートの作成を行う
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月園便りで発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			総合避難訓練の実施により消防署の方々やその際に地域の方へ周知のお声かけを行っている。今後は非常食の試食会等の際もお声かけしていく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・家族への説明、理解、職員間での情報共有が不安定な場面がある	アレルギーに関してはアセスメントの段階で把握した時はフローチャートを作成し、それに基づき周知していくようにする
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			・実例が出た場合はマニュアルに沿った対応をしていくようにする。 ・年に2回の研修会において学ぶ機会があるので職員で意識していく